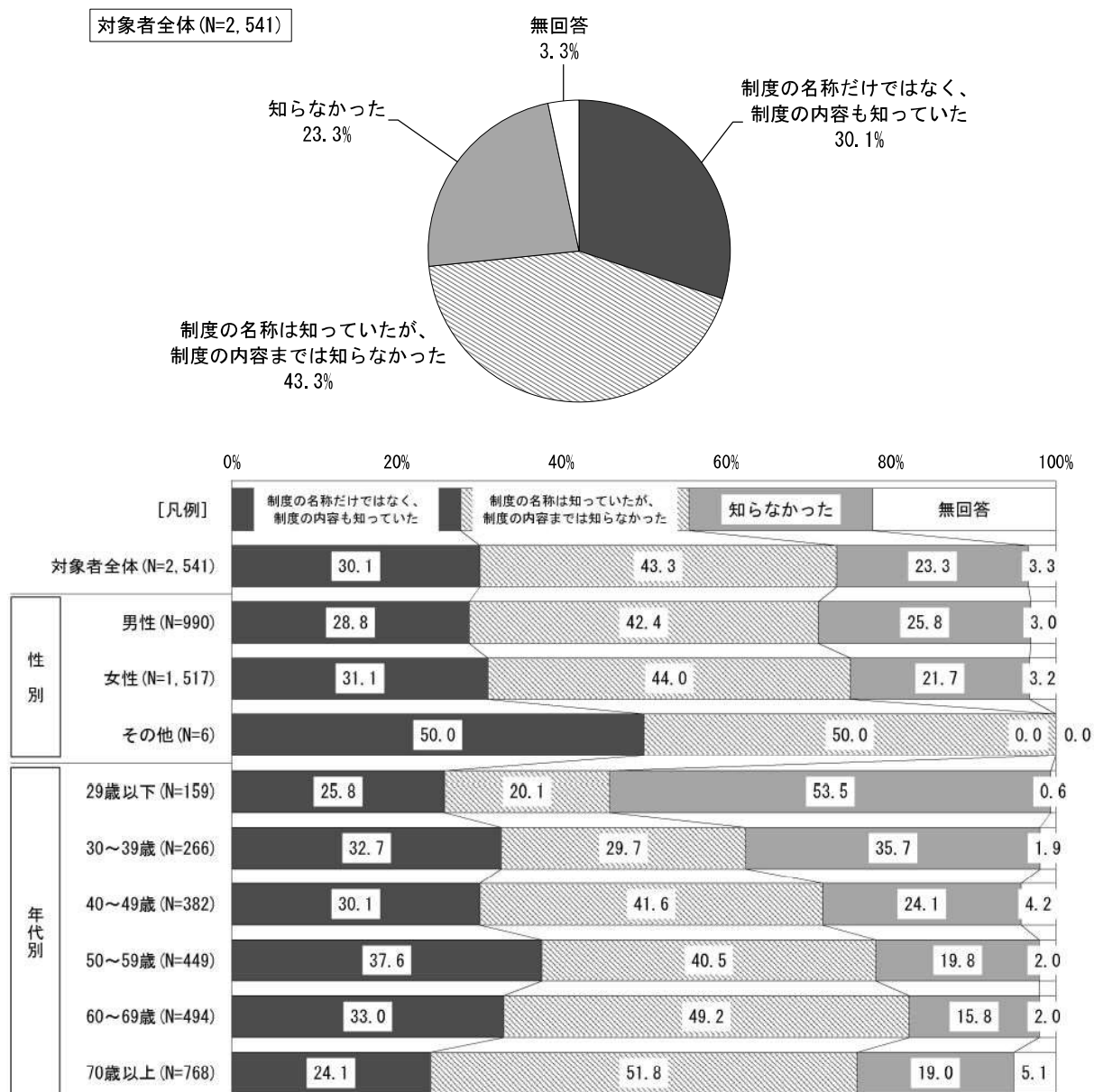


(4) 成年後見制度について

◇ 成年後見制度の認知度

問 2 1 あなたは、「成年後見制度」を知っていましたか。

成年後見制度について、制度の名称だけではなく、制度の内容も知っていた人は 30.1%



【全 体】 成年後見制度の認知度は、「制度の名称だけではなく、制度の内容も知っていた」が 30.1% となっている。一方、「制度の名称は知っていたが、制度の内容までは知らなかった」が 43.3%、「知らなかった」が 23.3%、合わせると 66.6%となっている。

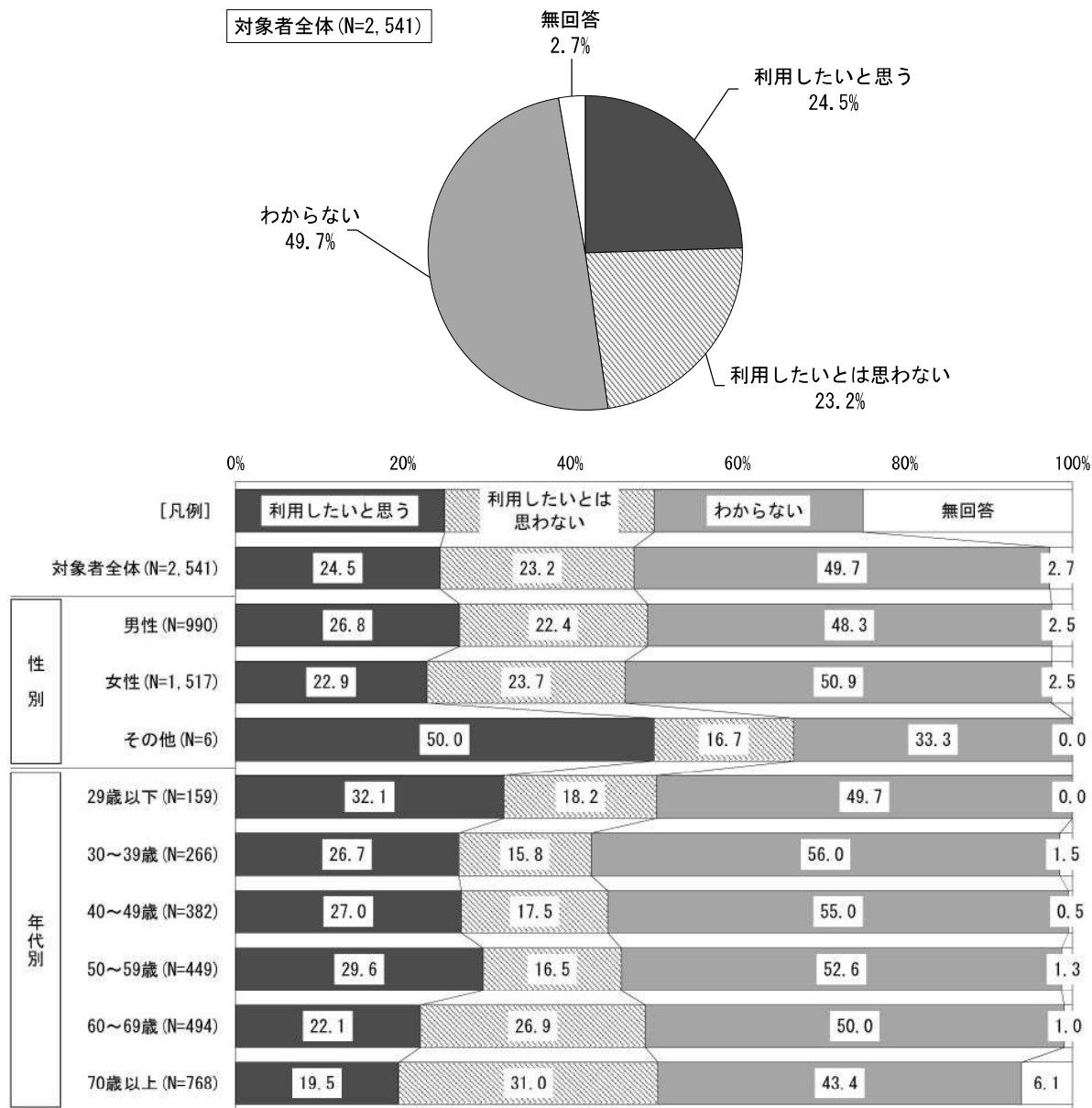
【性 別】 大きな差は見られない。

【年代別】 “知らなかった” は 29 歳以下 (73.6%) で最も高く、次いで 70 歳以上 (70.8%)、40 歳代 (65.7%) となっている。

◇成年後見制度を利用したいと思うか否か

問 2 2 あなたは、将来的にあなた自身の判断能力が不十分となった場合、成年後見制度を利用したいと思いませんか。

成年後見制度を「利用したいと思う」人は 24.5%



【全 体】成年後見制度を利用したいと思うか否かは、「利用したいと思う」が 24.5%となっている。一方、「利用したいとは思わない」が 23.2%となっている。

【性 別】大きな差は見られない。

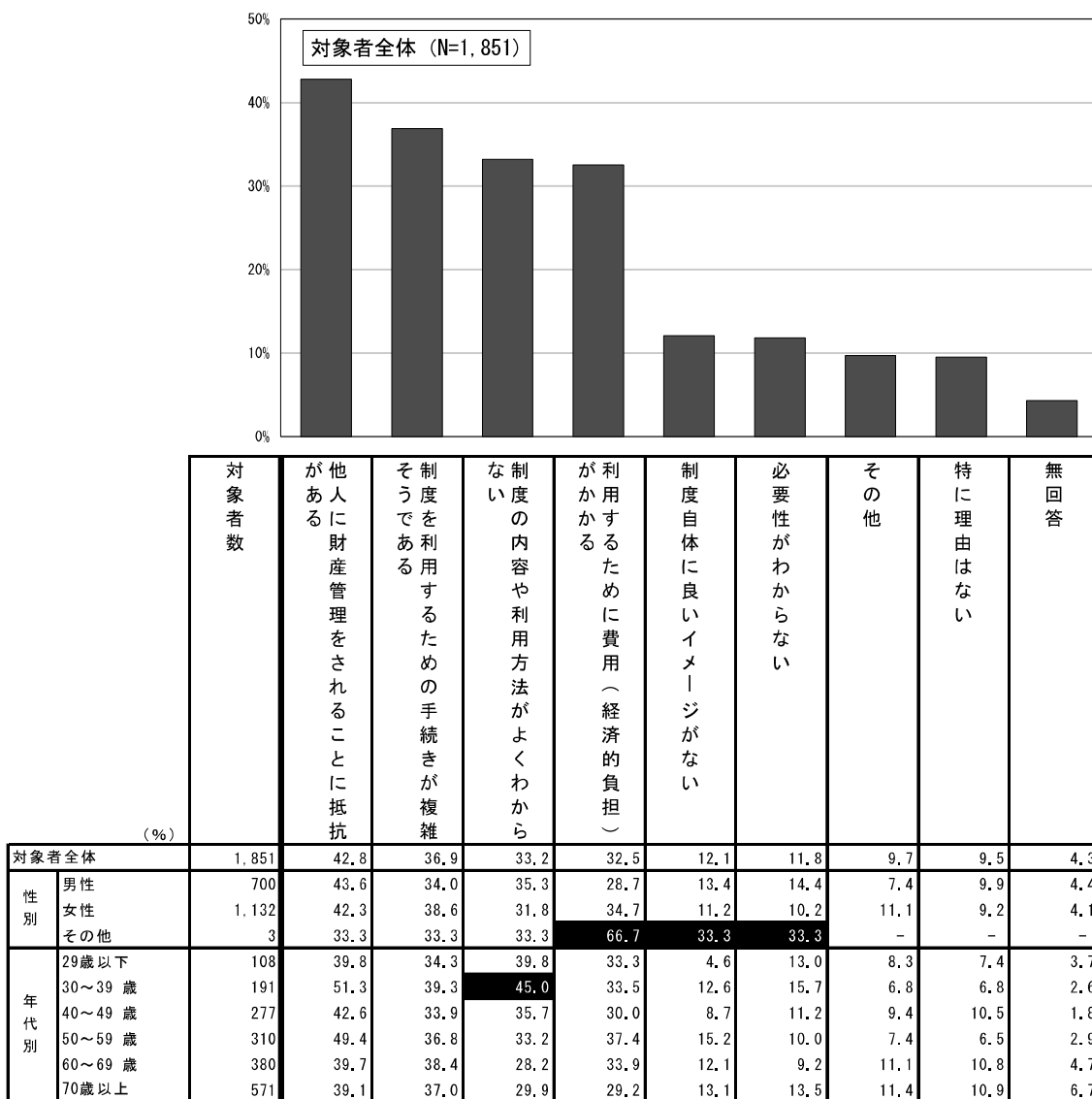
【年代別】「利用したいとは思わない」が 70 歳以上 (31.0%) で最も高く、最も低い 30 歳代 (15.8%) と比べると 15.2 ポイントの差となっている。

◇成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由

《問22で「2 利用したいとは思わない」または「3 わからない」と答えた方にお聞きします。》

問22-1 あなたが、「利用したいとは思わない」または「わからない」と答えた理由は何ですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由は「他人に財産管理をされることに抵抗がある」と回答した人が42.8%



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】成年後見制度を利用したいと思わない、わからない理由は、「他人に財産管理をされることに抵抗がある」が42.8%、「制度を利用するための手続きが複雑そうである」が36.9%、「制度の内容や利用方法がよくわからない」が33.2%となっている。

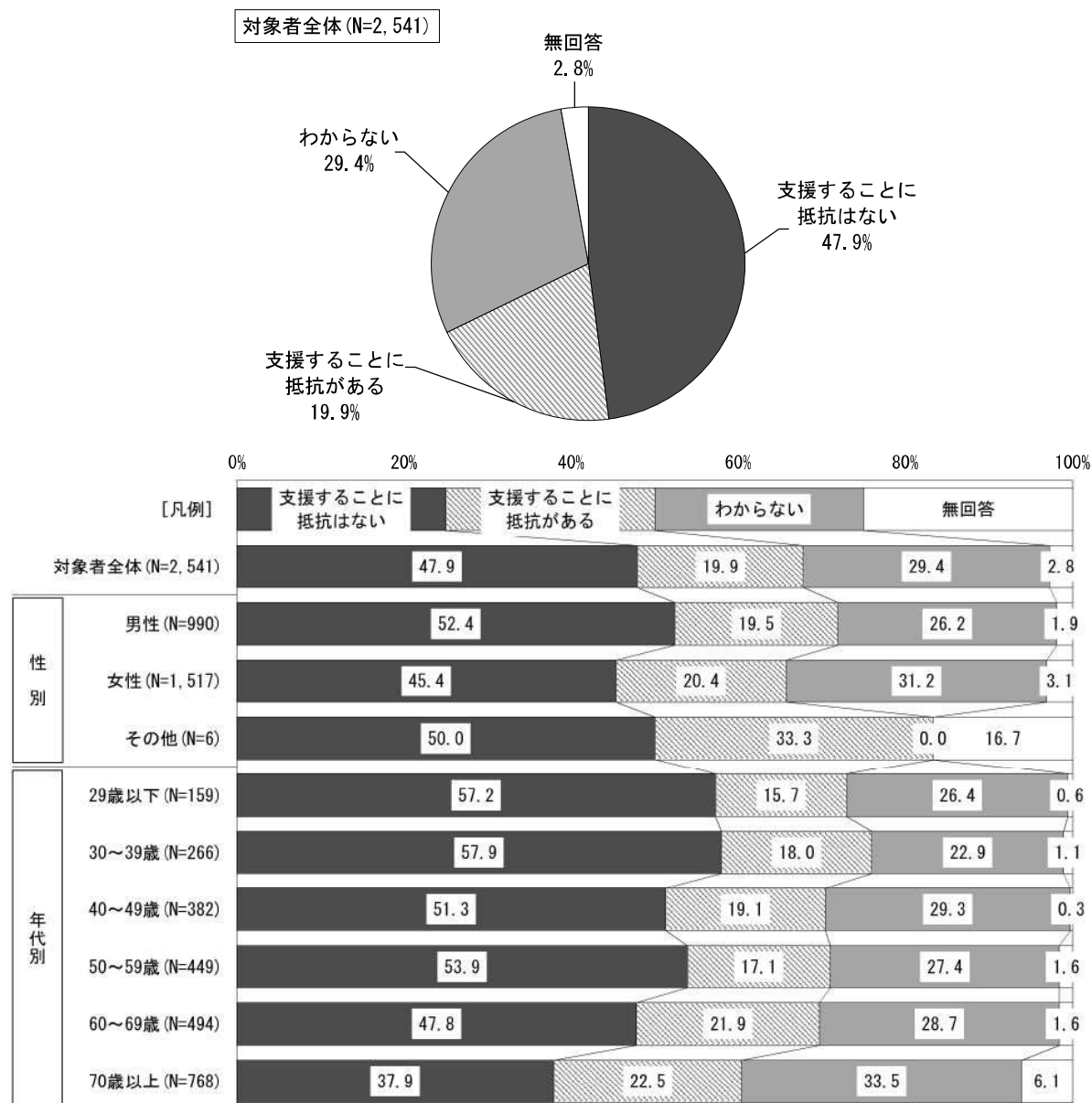
【性別】「利用するために費用(経済的負担)がかかる」は女性が34.7%と、男性の28.7%より6.0ポイント高くなっている。

【年代別】「制度の内容や利用方法がよくわからない」が30歳代(45.0%)で最も高く、最も低い70歳以上(29.9%)と比べると15.1ポイントの差となっている。

◇親族の後見人となり支援することに抵抗があるか否か

問 2 3 あなたは、親族の判断能力が不十分となった場合、親族の後見人となって財産管理や契約行為の支援をすることに抵抗はありますか。

親族の後見人となり「支援することに抵抗はない」人は 47.9%



【全 体】親族の後見人となり支援することに抵抗があるか否かは、「支援することに抵抗はない」が 47.9%となっている。一方、「支援することに抵抗がある」が 19.9%となっている。

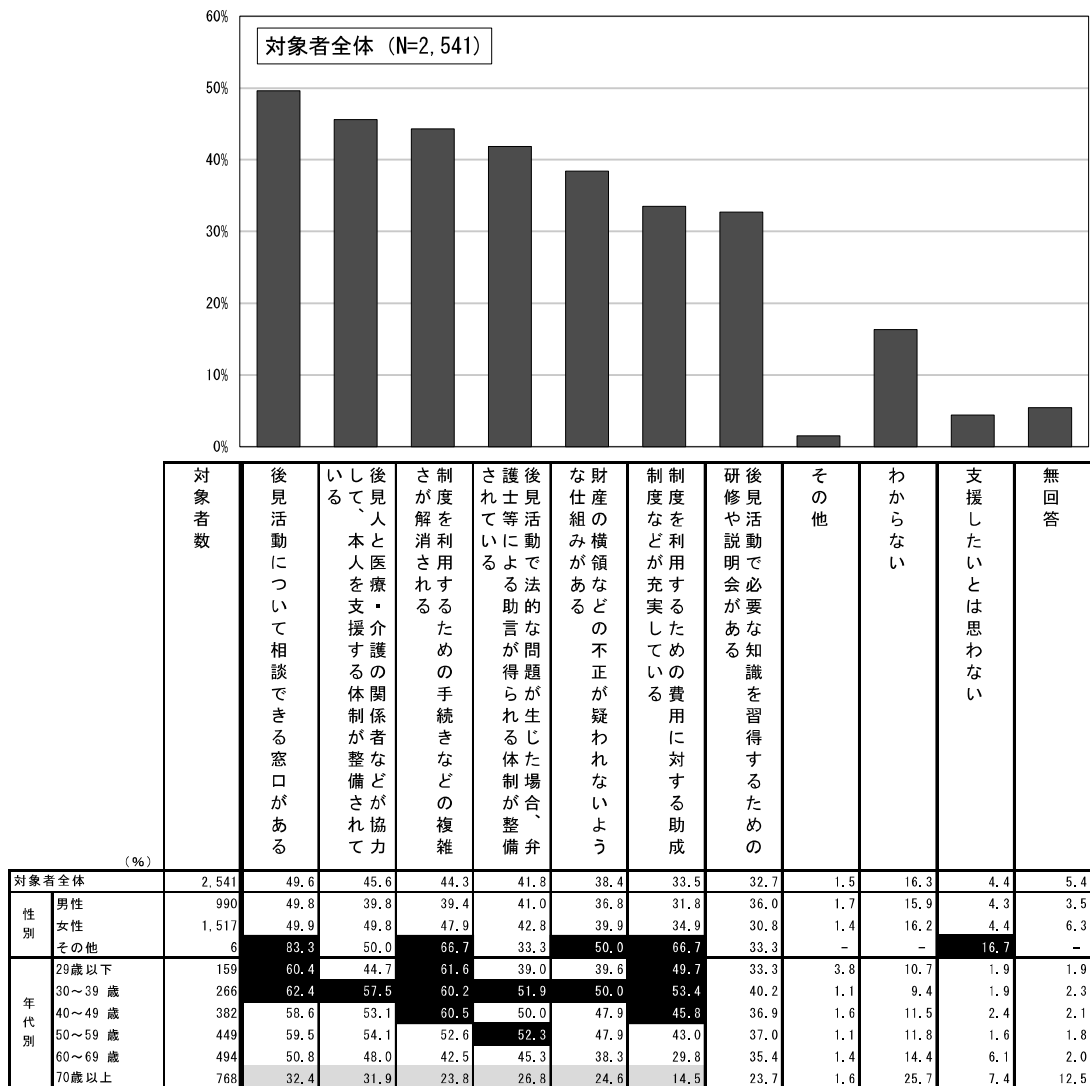
【性 別】「支援することに抵抗はない」は男性が 52.4%と、女性の 45.4%より 7.0 ポイント高くなっている。

【年代別】「支援することに抵抗はない」が 30 歳代 (57.9%) で最も高く、次いで 29 歳以下 (57.2%)、50 歳代 (53.9%) となっている。

◇親族からの依頼で後見人として支援する場合の環境

問 2 4 あなたが、親族から後見人になってほしいと依頼されたとき、どのような環境であれば、後見人として支援したいと思いますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

親族からの依頼で後見人として支援する場合の環境は「後見活動について相談できる窓口がある」と回答した人が 49.6%



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】親族からの依頼で後見人として支援する場合の環境は、「後見活動について相談できる窓口がある」が 49.6%、「後見人と医療・介護の関係者などが協力して、本人を支援する体制が整備されている」が 45.6%、「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消される」が 44.3%となっている。

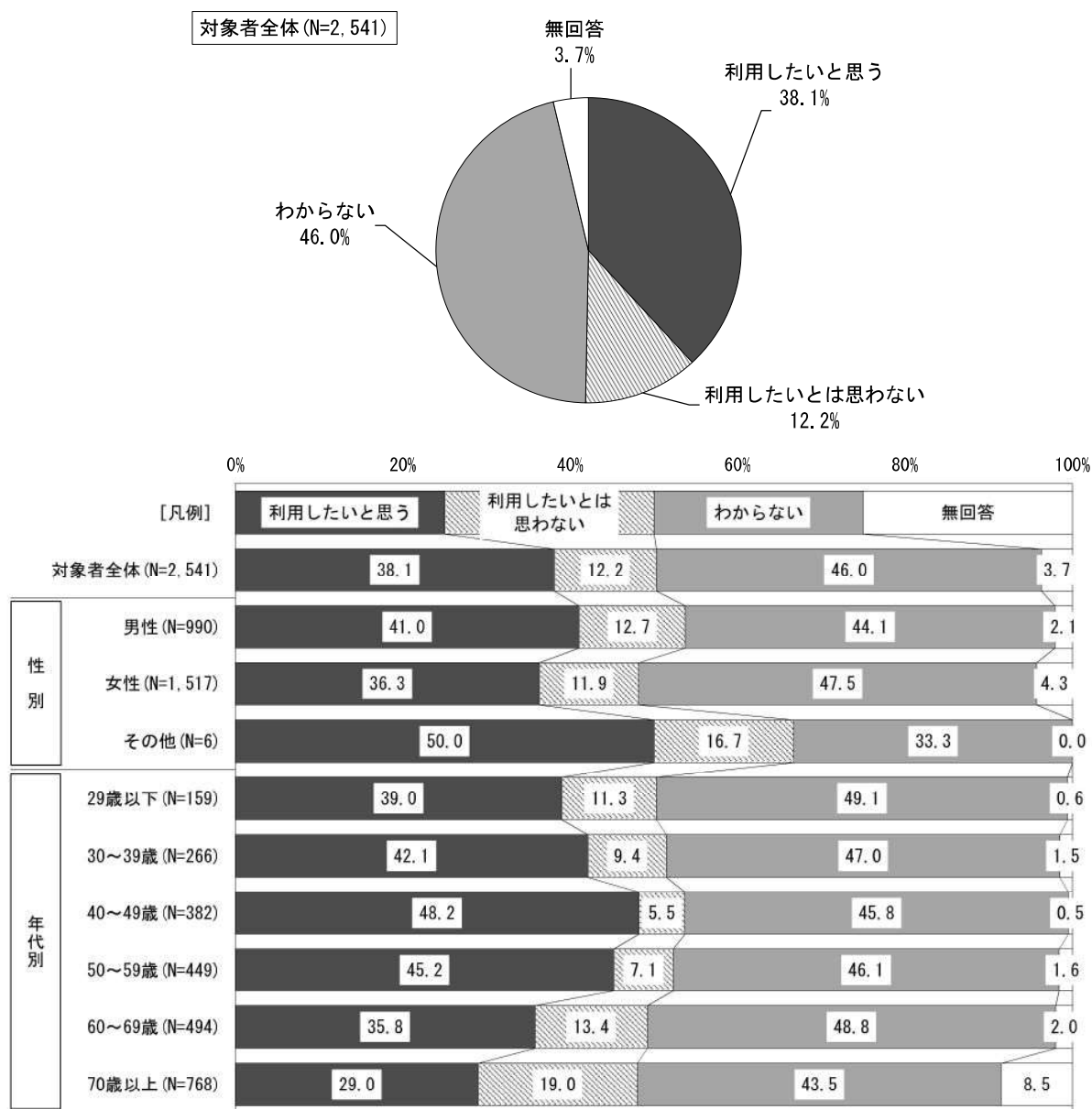
【性 別】「後見人と医療・介護の関係者などが協力して、本人を支援する体制が整備されている」、「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消される」は女性が男性より 8.5 ポイント以上高くなっている。また、「後見活動に必要な知識を習得するための研修や説明会がある」は男性が 36.0%と、女性の 30.8%より 5.2 ポイント高くなっている。

【年代別】29歳以下、40歳代では「制度を利用するための手続きなどの複雑さが解消される」が、30歳代、50歳以上では「後見活動について相談できる窓口がある」が最も高くなっている。

◇相談できる窓口があった場合に成年後見制度を利用したいと思うか否か

問 2 5 あなたは、身近に成年後見制度について相談できる窓口があった場合、利用したいと思いますか。

相談できる窓口があった場合に成年後見制度を「利用したいと思う」人は 38.1%



【全 体】 相談できる窓口があった場合に成年後見制度を利用したいと思うか否かは、「利用したいと思う」が 38.1%となっている。一方、「利用したいとは思わない」が 12.2%となっている。

【性 別】 大きな差は見られない。

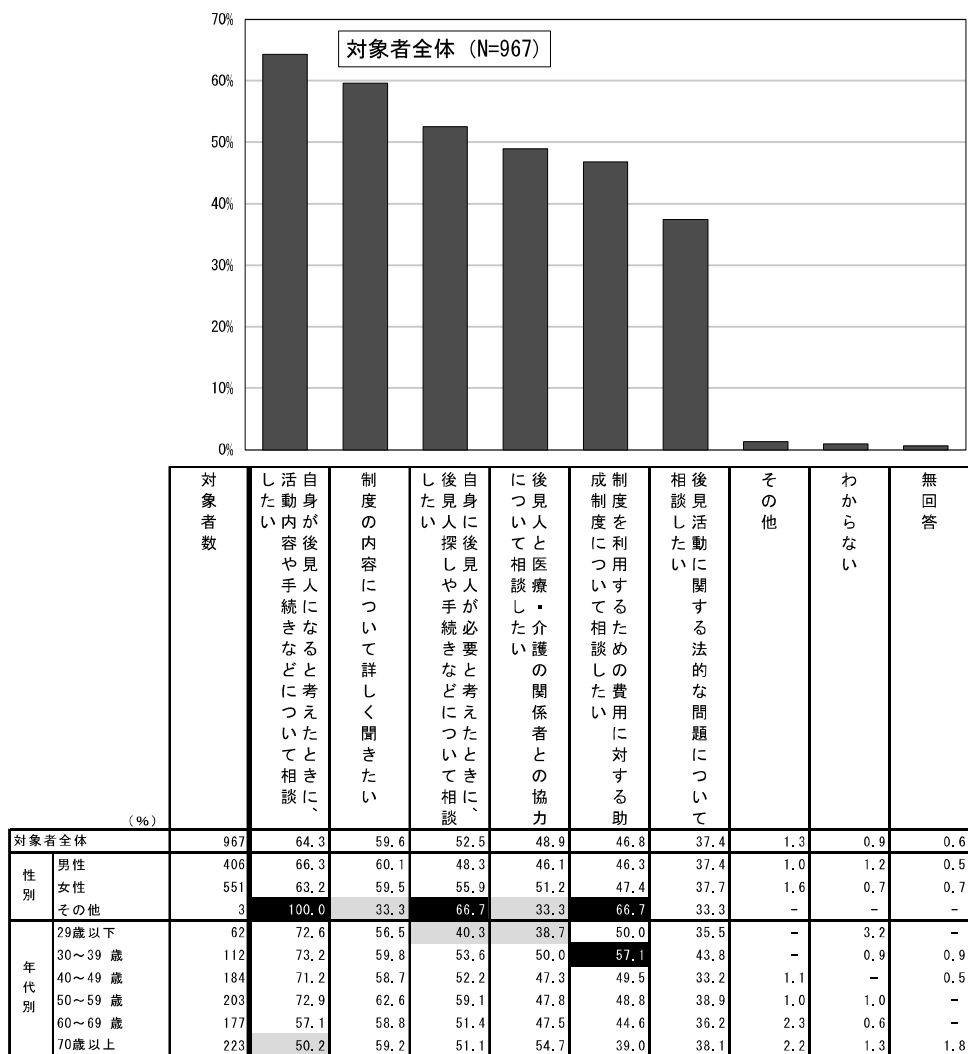
【年代別】 「利用したいと思う」が 40 歳代 (48.2%) で最も高く、次いで 50 歳代 (45.2%)、30 歳代 (42.1%) となっている。

◇窓口で相談したいこと

《問25で「1 利用したいと思う」と答えた方にお聞きします。》

問25-1 あなたは、窓口でどのようなことを相談したいですか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

窓口で相談したいことは「自身が後見人になると考えたときに、活動内容や手続きなどについて相談したい」と回答した人が64.3%



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】窓口で相談したいことは、「自身が後見人になると考えたときに、活動内容や手続きなどについて相談したい」が64.3%、「制度の内容について詳しく聞きたい」が59.6%、「自身に後見人が必要と考えたときに、後見人探しや手続きなどについて相談したい」が52.5%となっている。

【性別】「自身に後見人が必要と考えたときに、後見人探しや手続きなどについて相談したい」、「後見人と医療・介護の関係者との協力について相談したい」は女性が男性より5.1ポイント以上高くなっている。

【年代別】「自身が後見人になると考えたときに、活動内容や手続きなどについて相談したい」が30歳代(73.2%)で最も高く、最も低い70歳以上(50.2%)と比べると23.0ポイントの差となっている。